



トキ

東京シュタイナー
こどもの会

Tokyo Steiner Childrens Association

今を生きる

こどもたちは今を生きています。

生後まもなくから

いつも

今できることを一生懸命しています。

這うこと、立ち上がること、歩くこと、そして話すこと

それは将来のことを考えてというわけではなく

ただただ今、

そのことに夢中になっている。

教育もそうあってほしいと私たちは願います。

その時、そのこどもが必要な「今」を生きられるように。

東京シュタイナーこどもの会では

「今を生きるこども」を

教師、保護者が手を取り支え、みまもっています。



講師より

東京シュタイナーこどもの会では、小学生時代の6年間の成長をシュタイナーの人間観に基づいて育もうと、こどもたち、教師たち、保護者たちが共に集い学んでいます。

およそ二十歳までは、一生を自分らしく生きて行くための土台を築く時期です。こども時代をどのように過ごすかという事は、その後の人生に大きく影響します。この会では小学生の時期にこそ体験し培うべき様々なことを、その年齢に望ましいあり方で学びます。

驚き、喜び、感動と共にある学びは、こどもたちの心と身体に深く浸透します。

月に3回の学びの場ですが、ここで積み重ねる時間は、ゆっくりと、しかし確実に彼らの生きる力となっています。この実感がこの教育の大きな喜びです。

そして、ここでこどもたちが受け取ったものが、彼ら自身を支え続けてゆく人生の礎になるようにと教師たちは願い、授業に臨んでいます。

小学生時代の伸びやかな成長を、共に喜び支える教師と保護者たちもまた、大人として学び育てられています。それこそが一層この会を教育の場としてふさわしくしている大切なことと思います。

▼学年末のつどいより



ルドルフ・シュタイナー

(Rudolf Steiner / 1861~1925 オーストリア・現クロアチア)



思想家。哲学博士。ウィーン工科大学で、自然科学・数学・哲学を学ぶ。ゲーテの世界認識に影響を受ける。シュタイナーの精神科学は、教育、治療教育・芸術（建築・絵画・オイリュトミー・言語造形）・農業、経済などさまざまな領域に大きな影響を与えた。教育においては、1919年、シュタイナー思想に基づく「自由ヴァルドルフ学校」が開校。その後、ドイツをはじめ、世界各国にシュタイナー学校が設立されている。

「こどもを畏敬の念を持って受け入れ、愛を持って教育し、自由に向けて解き放つ」

シュタイナー教育のカリキュラムは、その年齢にふさわしい内容で構成されています。

～3つの七年期～

●第1・七年期(0～7歳) 身体(模倣)で「世界は善である」ことを知る。

●第2・七年期(7～14歳) 心で「世界は美である」ことを知る。

●第3・七年期(14～21歳) 頭で「世界は真である」ことを知る。

それぞれの時期に、「意志のもと」、「感情のもと」、「思考の力」が育ちます。そして21歳には、知・情・意をバランスよく持った自由な人間として世界に向かう準備ができるのです。

～第2・七年期～

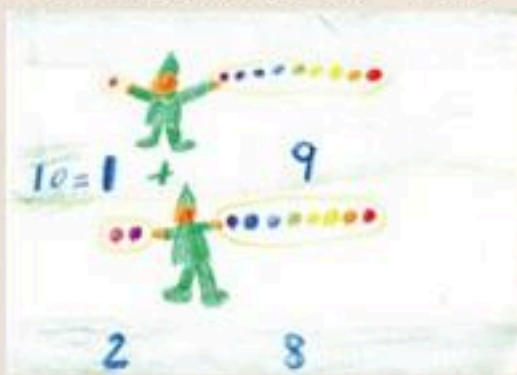
小学生時代はこの第2・七年期に当たりますが、どの学年においても、全ての科目に芸術的な要素が取り入れられます。文字の導入や幾何、歴史の授業でも、歌や詩を唱え、全身でリズムを体験する中で学びます。

低学年の授業は、幼児期の覆いに護られた雰囲気を残しつつ、こどもが次第に世界へ向かっていくことを支えます。お話の時間には、グリム童話や日本昔話のようなメルヘンを通して善良な人々が報われるお話、続いて聖人伝や神話などが語られます。

9～10歳の頃には、それまでの世界との一体感から脱し自他の区別を認識するようになり、環境や周りの人々から切り離されたような孤独を感じるようになります。同時に客観的な視点が芽生え、真に豊かな信頼関係を結び学んでいけるようになります。その頃に、楽園を追放されても神様とのつながりを失わずに、自らの力で学びながら地上で生活を営むことになったアダムとイブのお話(旧約聖書)を聞きます。その後、米づくり、家づくり、職人体験など実際に地上で生きていくための仕事や人々の知恵を畏敬の念と共に体験的に学びます。それらの体験が、勇気をもって自分らしく世界に出て行くことを支えるのです。

第3・七年期に近づいた高学年では、自然の中にある美しさと同時に真なるものにも目を向け、人間と動物学、植物学、鉱物学、物理学、古代史を学び、世界の神話や、苦境の中で真実を追求して生きた人々の伝記を聞きます。

▼こどもたちのエポックノートより



エポック授業

シュタイナー教育では、一つのテーマを様々なアプローチにより、一定期間続けて学びます。詩を唱え、歌を歌い、身体を動かした後に、そのテーマを巡って絵や文章をかいたり、物語を聞くことにより、頭・心・身体へと働きかける授業を行います。記憶力は、具体的・芸術的な学びによって形成され、身体と手足を動かす事でよりしっかりとしたものになり、真に息づいた学びとなるのです。

さて、実際の授業はどのような様子なのでしょう？

～6年講師より～

一人一人と握手して挨拶をする。それぞれの体温や握力にその子の今日の調子を感じたり、急に大きくなったなあと思う。

皆で始まりの歌をうたい、詩を唱え、光の力をもらうようにまっすぐに立つ。清らかさ静けさのあるひと時である。そして季節の歌。リズムや音の高低に合わせてからだを動かし、輪唱、合唱へと向かう。相手の声を聴き、合わせていけるまでに成長した。毎回少しずつ積み重ねた練習がハーモニーを生み出す嬉しさ！

それから身体を動かすゲーム。わいわい楽しむうちに日常の雑事を払いお互いに打ち解けて、さて学ぶ準備が整った。

今日の学びは鉱物学。私たちが生きて立つ大地を作るもの。地球のダイナミックな力と想像を超える時間に想いを馳せ、それぞれの石の美しさと思議さに感動する。外側は固まっているが内側はマグマの熱を抱く地球、それはまるで、表面はクールになってきても内に熱い思いを抱く6年生の心の中と呼応しているようでおもしろい。

また思春期には骨格がしっかりと成長しいわば結晶化へ向かう時期でもある。

今学期を通して、岩石が生まれる過程を実験したりいろんな石をスケッチしたり水彩にも取り組み、たっぷりと集中して鉱物学に浸ることになる。

最後はお話を聴く時間。部屋の電気を消すと、意識が内側へ向き始めたこどもたちの静かな横顔が浮かぶ。人類の歴史を聞き、その進化を推進してきた者たちの大いなる意志と情熱そして知恵に触れ、憧れと勇気を持って欲しい。小学校を卒業し人生の新しい航海へ出る6年生の魂への励ましになれかしと祈りつつ、いにしえの歴史を語る。

そして終わりの詩、歌の後、握手でさようなら。

感謝とともに授業を終える。

オイリュトミー

オイリュトミーは動きの芸術です。

シュタイナー教育では必須科目に取り上げられています。

エポック授業と同じように、こどもの年齢に従ったカリキュラムに沿って行われ、こどもたちの心身の成長を助け調和をもたらしめます。

エポック授業で語られるお話や、季節に応じたお話や詩を題材として用い、低学年のうちはメルヘンの気分の中でイメージを膨らませながら、次第に色々な詩や神話、様々な曲を通して、ことばの響き、音楽の音の響きを全身で体験し、皆で楽しみながら動きます。

最初は全員で一つの輪になって動く事から始まり、直線や曲線の動き、幾何学図形や鏡のフォルムなどの動きを学びます。

こどもたちはそうして少しずつ、空間の中で自分が他者とともに調和することも学びます。

※掲載されているカリキュラムや写真は保護者の理解の補助となるものです。

こどもたちが、カリキュラムの内容とふさわしい出会い方ができるように、こどもたちには事前に知らせないようにお願いいたします。

※授業内容の選択は、各講師によって決められます。

保護者の活動について

会の運営は、親が行っています。

さまざまな係があり、ひとりひとりが自分のできることを受け持っています。

運営について



東京シュタイナーこどもの会では、保護者が会員として会の運営を担い、こどもたちが安心して授業を受けられるよう、講師会と協力しながら教育にふさわしい環境を整えます。会場の手配、会員の募集、イベントや講演会の企画、会計、通信「泰山木の道」の発行など、様々な役割を分担し、主体的に活動しています。月に一度の全体会では、会員全員が顔を合わせ運営について話し合います。学年をこえた交流が生まれ、係の活動の中には学びや気づきとともに喜びがあります。

教室のしつらえ



こどもたちを部屋に迎え入れる前に、毎回保護者が授業にふさわしく教室をしつらえています。掃除をした後、それぞれの学年に合う色の布で不要なものを覆い、四季折々の草花を添えて「季節のテーブル」を飾ります。そのような温かく心のこもった空間を大切にしています。手仕事の会で作った羊毛人形が飾られることもあります。

手仕事の会



会員交流の場のひとつに、任意のサークル活動として手仕事の会があります。会員同士で得意なことを教えあい、羊毛人形作りや編み物、染め物、ときには料理教室なども開いて楽しんでいます。天然素材を使って手仕事をしたり、美味しいものをいただくと、心も身体も癒されます。手を動かしながらも、おしゃべりに花が咲き、時には育児の相談や悩みをシェアできる大切な場になっています。

親の学び



保護者がシュタイナー教育について学ぶことで、こどもに必要なことへ理解が深まります。講師から学ぶ機会も多くいただいています。学期に一度の保護者会では、こども達の授業の様子やカリキュラムについての説明の他、実際の授業内容を保護者が体験することもあります。希望者のためのオイリュトミー講座も月に一度の貴重な学びのひとつです。

この他、外部から講師をお招きしてセミナーを開催することもあり、様々な機会を通して私たち大人も自らの学びを深めることができます。

親たちのこえ

低学年

こどもはどんなに疲れてオリンピックセンターについても、授業が終わると目をキラキラさせて生き生きと喜びにあふれた表情で教室から出てきます。きっと心にたくさんの栄養をもらっているんだなあと思います。土曜クラスに通えることを幸せに感じています。

Winter



Autumn



中学年

はじめはこどものためにと入会したつもりでしたが、入会し、3年経った今では、土曜クラスを通して出逢ったご縁により、親である自分自身が、数多くの気づきや学びの機会をいただき、自分のためのとても大切な時間だと思っています。

こどもは、ありのままを大事にしている時間
大人は、自分のありのままを思い出し、探すことのできる時間
親子ともに、かけがえのない時間を過ごさせていただいています。

中学年

こどもたちは、これからいくつもの荒波を越えていくであろうと思います。土曜クラスで過ごした温かな時間が、いつかこどもを力づけ、支えになるようにと願っています。温かさや優しさに満ちあふれた月3回の土曜クラスは、親子で何が何でもお休みせずに過ごしたいひとときです。

高学年

ここには、素晴らしい先生方と保護者が共に創り上げる、落ち着いた学びの場があります。成長に合う学びを、先生方は時間や手間を惜しまず、丁寧にご準備くださり、保護者は毎回、その場を季節に合わせ、大切にします。こどもたちは、その中で、様々な学びと体験をしていきます。土曜日毎のその積み重ねが、こどものこころに輝きをもたらす、こどもたちは丁寧に、そして、しっかりと育まれていきます。この素晴らしい学びを、多くの方々と分かち合うことは、大変な幸せです。

Summer



卒業生

6年間、先生方、クラスのお友達とそのお父さん、お母さん、豊かな人間関係に囲まれて、わが子が慈しみ、見守られながら大きくなることができたこと、それは、こども本人にとっても、親の私たちにとっても、かけがえのない経験です。土曜クラスで過ごした時間は、大事な大事な根っことなったことでしょう。これからの人生においても大きな励みになることと確信します。



▲季節のテーブルより



東京シュタイナーこどもの会とは

旧 NPO 法人東京シュタイナーシュール（現在は、神奈川県相模原市にある学校法人シュタイナー学園）の土曜クラスが前身です。

東京シュタイナーシュールの学校法人化・移転に伴い、土曜クラスの存続を願う親たちが、2005年、「東京シュタイナーこどもの会」を立ち上げました。

東京・代々木を中心に活動し、都心部でこどもたちがシュタイナー教育を受けることのできる場をつくっています。

- 活動日・・・基本的に月3回、土曜日の午後
- 活動場所・・・国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京・代々木)
- お問い合わせ先 toiawase@t-steiner.net

講師の紹介・募集の案内・催し物の案内など詳しくはホームページへ <http://www.t-steiner.net>